

少しずつ春めく日々喜びを感じながら過ごす今日この頃。少しでも気持ちが明るくなると嬉しいですね!まだまだ気を緩めることはできませんが、文化から力をもらうことも大切です。実施できる催しも少し増えてきていますので、ぜひ力をもらってみてはいかがでしょうか。

豊橋総合いけばな展を開催します。

豊橋華道連盟に所属する9流派の合同いけばな展です。各流派出色の作品で、見ごたえのある花展となります。ぜひご覧ください。

- ▶日時/令和4年4月23日(土)～24日(日)
午前10時～午後4時
- ▶場所/豊橋市民文化会館2階展示室
- ▶出瓶団体(予定)/嵯峨御流、華道家元池坊豊橋、小原流、南宗流、真生流、日本生花司松月堂古流、花芸安達流、日本華道松月、天生流(順不同)
- ▶問合せ/豊橋文化振興財団 ☎0532-39-5211



春の市民大茶会について。

令和4年4月に予定しています「春の市民大茶会」ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、開催の有無や開催方法について検討しております。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

初釜茶会を開催しました。

令和4年1月9日、三の丸会館において豊橋茶道クラブ主催、煎茶売茶流による初釜茶会が開催されました。折からのコロナ禍、予約制による人数制限や換気対策などの徹底に加え、待合や点心も省略した茶会となりましたが、心が尽くされたお道具の数々やオリエンタルな雰囲気の数々はいかにも自由闊達な雰囲気、そしてなんと新茶(甘露)のお点前・煎目と二煎目の異なる味わい、間に頂く若松園のお菓子(ゆり根きんとん、つぶあん)は変わりなく誠に素晴らしく、おいしく、浅井由崇市長や田中市議会議長はじめ豊橋市の幹部の皆様にも至極の豊橋伝統文化を堪能して頂くことができました。

昭和24年に発足し26年に現在の形の茶道クラブとして月例会茶会を開催し続け、昭和61年には三の丸会館もできました。初釜茶会もその中の一つとして続けてまいりましたが、昨年は時勢がままならず開催できませんでした。今年の初釜のお軸は黄檗山六十一代巨令「吸毛剣」、ふっと吹きかけた毛が切れたという伝説の名剣の如く、閉塞感に満ちた状況を託るばかりでなく、この様な時にこそ一期一会、文化の力で心の切れ味を磨いておきたいものです。



豊橋の文化活動—アーカイブス⑪

～気骨の文化人たち I～

豊橋文化振興財団の「市民草の根文化運動」の発露として、戦前の第一次文化協会までそのルーツを辿り、更には東三新人会をはじめとする豊橋のプロレタリア文化運動をも併せ振り返ってみると、熾烈な正義感と文化人の矜持が伝わってくる。

中でも、戦後の豊橋文化協会(第二次文化協会)設立に深く関わる、岩瀬正雄(毛利豹介)、河合陸郎(西進策)、浅井秀雄(野呂進)らによる、問答無用のファシズムに抗い、言論閉塞の時勢をかちながら止むことのなかった文化活動やその軌跡を現代の我々の心にも止めておきたいものである。

「道無窮」(みちはさわりなし)

◎河合陸郎(明治35年1902～76)と浅井秀雄(明治34年1901～72)

日本の社会主義運動は明治44年の大逆事件によって一時後退するが、大正7年の米騒動に見られる自然発生的な大衆運動が盛り上がり、第一次世界大戦後の不況、昭和恐慌等による生活不安、ロシア革命の影響などを背景として、全国的に拡大した。大正7年8月には豊橋でも米騒動が勃発し若き日の河合陸郎は清水(今の犬橋通)の交番襲撃デモに参加し逮捕(不起訴、当時16歳であったが、この体験が実業家への道よりも、もっと人間的な生き方へかわっていく要因となっていた。<河合陸郎伝>)されている。

陸郎は大阪YMCAの頃より大逆事件に深く関心をもっていた石川啄木に心ひかれ、夜店や古本屋で啄木の歌の載っている雑誌「明星」や「スバル」を探し読み、自身も啄木ばりの歌を作って新聞に投稿していた。

啄木が創刊号の発行人を務めた「スバル」、与謝野晶子「君死に給うこと勿れ」の掲載された「明星」である。

陸郎はやがて豊橋に戻り日刊新聞社「新朝報」に入社し、以来およそ30年におよぶ記者生活の第一歩を踏み出した。大正10年19歳の年であった。

陸郎は第二次文協・豊橋文化にも「西進策」のペンネームで寄稿しているが、由来は、高杉晋作の号「東行」に対し、晋作の向こうを張って「西に進む。」それでペンネームにした、と語り、昭和5年から新朝報コラムより使用している。

このような世相の中で、大正10年頃に河合陸郎は浅井秀雄、福沢卯介や野口品二らとともに社会主義的思想に傾く「黒暮土社」を結成した。ただし、「黒暮土社」はどちらかというと文芸活動的団体であり、労働運動というものではなかった。



豊川にて(右より2人目が河合陸郎) 大正2年頃

新春ご挨拶

公益財団法人豊橋文化振興財団
理事長 藤原俊男



謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年は前年に引き続きコロナ禍で様々な困難に立ち向かう一年でしたが、皆様の格別なお引き立てを賜りながら出来る限りの事業を進めることができ心より感謝申し上げます。とりわけ昨秋に行った豊橋文化振興財団設立20周年記念式典には多くの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。記念誌も発刊させていただきましたが、20周年を迎えるにあたり「豊橋文化」紙面にアーカイブ欄を設け戦後の豊橋文化協会以来75年の軌跡を振り返るとともに歴代理事長との鼎談も行う中で、改めて文化の尊さや美しさを感じ皆様の生活に灯りをともしることこそが私共豊橋文化振興財団の存在意義であると再認識したところでございます。

文化とは、突き詰めれば平和と自由であると思います。豊橋文化振興財団のルーツを辿り戦前にまで遡ればファシズムに抗い、自由な表現を希求する若者達や市井の人びとの生活が垣間見られます。衣、食、住、遊、習、学、こうしたものすべてが文化であり、それらが平和裡に自由に表現されなくては人の心に灯りとはならず潤うこともありません。豊橋文化協会というものが初めて組織されたのは昭和8年、現在の豊橋文化振興財団につながる第二次世界大戦前の第一次豊橋文化協会が昭和9年に発足し、戦後昭和21年に第二次豊橋文化協会がスタートしましたが、いずれも様々な社会状況にあって文化というものが人々に慰藉と光明をもたらす生きる糧になるという点で心は共通しています。畢竟するに私たちに今求められていることは、豊橋の将来がより明るくなるような文化振興に向け、温故知新、智慧を出し合うことが大切ではないかと思えます。

結びに豊橋文化振興財団20年という歴史を刻むことができましたのも、皆様方のご指導ご鞭撻のおかげでございます。心より感謝申し上げますとともに、今後とも当財団へのご支援ご協力のほどをお願いいたします。

本年も皆様方がご健勝で益々活躍される事をお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和4年度 維持会員会費納入のお願い。

豊橋文化振興財団は、維持会員の皆様の財政的支援を受け、文化芸術を通して人々の生活を豊かにし、活力ある街づくりに貢献するため、様々な文化事業を実施しています。

新型コロナウイルスが社会的・経済的に影響を及ぼす中での依頼で大変恐縮ですが、新年度も引き続き、ご支援・ご協力賜りたく、令和3年度の維持会員の皆様には、**3月上旬に更新のご案内を送付させていただきます。**指定の方法にて引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

- ▶会員期間/令和4年4月1日～令和5年3月31日
- ▶会費/普通個人会員: 1口 3,000円、特別個人会員: 1口 10,000円
特別団体会員: 1口 10,000円、特別法人会員: 1口 20,000円
特別賛助会員: 1口 50,000円

●特定公益増進法人に対する寄附金について
当財団の維持会員としての会費は、所得税法施行令第217条第1項第3号及び法人税法施行令第77条第1項第3号に該当する特定公益増進法人として、寄附金控除の対象となります。詳細につきましては、お送りするご案内をご覧ください。豊橋文化振興財団事務局までお問い合わせください。

文化団体紹介 Vol.34

小唄 春日とよ津満糸会

小唄に始まり小唄に終わる

今回は豊橋の小唄団体「春日とよ津満糸会」の春日とよ津満糸先生にお話を伺いました。

先生が小唄のお師匠になられるまでのいきさつを教えてください。

幼い頃から日本舞踊を習っていて、邦楽には慣れ親しんでいました。昭和37年に春日とよ八重師匠の小唄を聴き、ものすごく感動しました。「何でもない時間が感動的な時間に!」という感覚でしたね。それから友人に誘われて中日文化センターで小唄を習い始めました。また、岐阜で春日とよ津満師匠に出会い東京に通い始めました。

現在の活動について教えてください。

現在も春日とよ津満先生のところに通っており、コロナ流行前は東京の三越劇場や国立劇場などでも発表を行っていました。

お稽古は自宅・サーラ・文化会館で行っており、みなさん楽しんでくださっています。「その人の持ち味を上手に活かしてあげること」を大切にしています。

これからどのように活動されていきますか?

邦楽大会や邦楽鑑賞会での発表はもちろん、三の丸会館やプラットでも発表会をしたこともあるので、今後も開催したいと思っています。また、現代に合った小唄を豊橋の土地で作っていき、小唄を豊橋に広めたい、小唄を学んでくださる方がもっと増えると嬉しいと思っています。

小唄の特徴や魅力を教えてください。

小唄は江戸時代に始まりました。曲は長くても3～4分で、「いいことりの唄」みたいな感じです。「吉田」や「三河」が出てくる小唄もあるんですよ。習字で例えると長唄は楷書、清元や小唄は草書と言えますね。三味線は中棹を使用し、江戸時代はばちで弾いていたそうですが、明治時代に入ってからばちを使わず爪弾きをしています。ちなみに津軽三味線は太棹、長唄は細棹を使用します。最初に作られた小唄「散るは浮き散らぬは沈む紅葉ばの影は高きか山川の水の流れに月のかげ」は、人の人生をそのまま唄っていて、なんて綺麗な言葉なんだらうと思います。小唄は奥ゆかしいけど「粋でないせで上品」でないといけません。



催し物スケジュール 3月～4月

※この予定表は予告なく変更する場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。



豊橋文化 2022年2月発行

市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せ先までご連絡ください。

3月	裏千家六日会月釜 時間●10時～ 場所●三の丸会館 会費●800円 担当●清水宗澄
6日(日)	茶道クラブ月例茶会※事前予約制(2月20日より予約受付開始) 時間●9時30分～ 場所●三の丸会館 会費●一般600円/会員500円 担当●宗偏流豊橋支部
	第41回華道家元池坊豊橋支部展 9日(水)まで 時間●10時～ 場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT 入場料●無料 内容●池坊豊橋支部に所属する会員によるいけ花の展覧会
8日(火)	西川芸能練習場稽古 時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋上伝馬町) お問合せ●080-1063-3855
12日(土)	私のB級?!コレクション展 13日(日)まで 時間●10時～16時 場所●豊橋市民文化会館2階展示室 入場料●無料
13日(日)	第10回 オオミナオバレエスタジオ発表会 時間●13時30分～ 場所●アイプラザ豊橋 講堂 入場料●無料 内容●2年に一度のクラシックバレエの発表会
16日(水)	水曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
18日(金)	MGT 第8回 演奏会 時間●18時30分～ 場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース 入場料●無料 内容●全国各地で活動するクラシックの音楽家の演奏会
19日(土)	桜丘学園吹奏楽部第35回定期演奏会 20日(日)まで 時間●19日:18時30分～ 20日:14時～ 場所●アイプラザ豊橋 入場料●指定席:1,000円 自由席:800円 内容●両日ともクラシック、ポップスステージあり。19日はミュージカル、20日はマーチングステージを行います。
	日曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
20日(日)	東陽ふれあい音楽会「MIOのほのぼの音楽会～私の想いをメロディーの翼に乗せて～」 時間●10時～ 場所●東陽地区市民館 参加券●400円 出演●すずきみお(ピアノ)・鈴木直己(賛助出演)
	西村能舞台稽古 時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋上伝馬町) お問合せ●080-1063-3855
21日(月)	シニアのための脳トレピアノ@おいまつ教室発表会 時間●14時～ 場所●豊橋市民文化会館 リハーサル室 入場料●無料 内容●シニアのための脳トレピアノ@教室の第1回発表会
29日(火)	第54回三河書芸展 4月3日(日)まで 場所●桜ヶ丘ミュージアム 内容●書道愛好家約80名による書道作品展覧会

4月	日本生花司松月堂古流東三支部 春のいけばな展 4日(月)まで 時間●10時～14時30分 場所●穂の国とよはし芸術劇場PLATアートスペース 入場料●無料 内容●日本生花司松月堂古流東三支部の会員によるいけばな展
3日(日)	西川芸能練習場稽古 時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋上伝馬町) お問合せ●080-1063-3855
8日(金)	邦楽鑑賞会 時間●17時30分～ 場所●豊橋市民文化会館ホール 入場料●無料 内容●市内邦楽団体による披露
9日(日)	飛雲会音楽発表会 時間●14時～ 場所●豊田能楽堂
10日(日)	茶道×クラシック音楽 時間●11時～15時 場所●豊橋市三の丸会館 入場料●2,500円 内容●茶道薄茶点前のデモンストレーション、一服のち、チェンバロとヴァイオリンのコンサート
	琵琶演奏会「春のおさらい会」 時間●13時開演(12時開場) 場所●豊橋市民文化会館リハーサル室 入場料●無料 内容●「石童丸」「船弁慶」「坂本龍馬」など日頃のお稽古の発表をします
16日(土)	えびね展 17日(日)まで 時間●9時～17時 場所●豊橋市民文化会館2階展示室 入場料●無料 内容●東三河えびね愛好家による多種にわたる「えびね(ユリ科)」の展示
17日(日)	日曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
19日(火)	日本水彩画会豊橋支部第39回日本水彩画会豊橋支部展 24日(日)まで 時間●9時～17時 場所●豊橋市美術館 入場料●無料 内容●豊橋支部会員による水彩画の展示
20日(水)	水曜短歌会 時間●13時30分～ 場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室
23日(土)	豊橋総合いけばな展「春」 24日(日)まで 時間●10時～16時 場所●豊橋市民文化会館2階展示室 入場料●無料 内容●市内華道9流派による東三河最大級の華展
29日(金)・祝	豊橋少年少女合唱団第42回定期演奏会 時間●14時開演(13時30分開場) 場所●豊橋市民文化会館 入場料●1,000円(自由席・3歳以下無料) プログラム●歌のアンサンブル、子供から大人まで一緒に歌おう♪、合唱劇 はじめましてシェーベルトさん

今号の一枚

「Lion.E II」

サイズ F50号

YuDai



動物が懸命に生きようとする姿勢から感じる無限のエネルギーを絵で表現しています。

この作品の技法は、アクリル絵の具に同じ量のモデリングペーストを混ぜ合わせて、それをペインティングナイフを使って、厚く盛り上げて塗っています。赤色、青色、黄色を基本として描いているため力強い色彩でライオンが強さと格好良さ、そして優しさや温かさを表現しています。

展示歴

2021年 松坂屋名古屋店
「IIME FUKURAME」
2021年12月～2022年1月
GINZA SIX artglorieux
「artglorieux Selection Part I」
「artglorieux Selection Part II」

1999年生まれ 愛知県豊橋市在住

VOL.1

気まぐれプチ旅

たぬきうどん 斧路朱音

京都駅八条口すぐそばの帝国ホテルでの会議に出席…会議は午後からだだったが少々思惑があり、早めの列車に飛び乗った。京都駅には10時過ぎに到着。人込みでにぎわう南北連絡通路を渡り、烏丸口へ出た。そこから東口の方へ進み、京都センチュリーホテルの角を曲がり、正行院を横目で見ながら辿りついたのは、1938年創業の『新福菜館本店』。

10数年ぶりにドス黒いツウのラーメンを啜ろうと楽しみにしていたが、すでに店前に20人程の行列ができていた。ちなみにこの店の並びにある京都ラーメンの老舗『第一旭』にも同じぐらゐの行列…仕方がないので諦めて、再び八条口方面へ。

下町情緒の遺る路地裏を歩いていると、ひなびた大衆食堂の『殿田』を発見！早速、暖簾を潜り、案内されるままに着席。メニューを拡げると、『たぬきうどん』のところに「名物」さらに畳みかけるように「一番人気」の表示…ここは店主を信じて素直に乗っかってみることにした。

老舗の風格を漂わせた昭和レトロの店内を眺めながらしばらく待っていると、京風の『たぬきうどん』がおもむろに登場。それこそ狸に化かされたのかと思うほど、自分の抱くイメージ(『かけうどん』)に天かすを乗せたものとは、かなりかけ離れた代物だった。

まさに「ところ変われば品変わる」…中細のうどんの上には、ふわふわの刻みお揚げと香り高い九条ねぎ、さらにすりおろした生姜がたっぷりと乗っている。しかも関西風の昆布ダシのつゆは、なんと「あんかけ」仕立て！なるほど、これなら底冷えする京都の厳しい冬ものりきれるというもの。ボリューム満点の京風『たぬきうどん』を、汗ばみながらゆっくりと時間をかけて堪能。

会議は白熱して2時間に及ぶ。外に出ると陽はオレンジ色に染まり、西の空に傾いていた。八条口界隈の土産物屋を物色…『しば漬』や『抹茶菓子』などを土産に、足早に帰路に着いた。



冬休み伝統文化こども教室を実施しました。

令和3年12月26日と令和4年1月5日に冬休み伝統文化こども教室茶道の部、令和3年12月24日に華道の部を実施しました。夏の伝統文化子ども教室と同様にとても多くのお申し込みをいただき、抽選となり、茶道19名、華道34名の児童が参加しました。夏とはまた違った趣があり、華道の部ではクリスマスに飾るお花を活けました。



文化短信

▼豊橋市民俳句会 第644回句会
惣闇の先に一灯年歩む 佐藤英子
鎖国めくコロナ対策年の暮 林春美
行く年や故郷離れて半世紀 鳥居節子
白菜を割る玉手箱開くこと 彦坂龍子
芸なしは酔ふことに決め十二月 大河美智子
蜜柑山望む入江の奥浜名 篠田和代
樹をばなれ銀葉落葉はそれぞれに 藤田源一
歳時記をいつも机上に年歩む 河合澄子

第645回句会
新幹線初日に向ひまっしぐら 彦坂龍子
寒晴や球児の声の弾みをり 高橋良子
自画像の残る子の部屋年の暮 白井節子
大嘘思はぬ地顔見られけり 大河美智子
産土の竜の零せし寒の水 加藤美津子
四百枚棚田粧ふ雪化粧 林春美
青僧のひるがへり撞く除夜の鐘 佐藤英子
子等の笑み貫き奉仕の初仕事 篠田和代
北風や釣り場白波ひもすから 藤田源一
七人の敵もつ男大嘘 河合澄子

▼豊橋文化短歌会 (令和三年・四年) 十二月水曜短歌会
叩いても石橋渡らぬ臆病者 西郷賢治
そつで逃げる足は速いよ 西郷賢治
終点まで温き心を持ち続けろ 伊藤はつあ
らぬだろうな盲導犬は 伊藤はつあ
賀状書く時季にあせれと筆重く 原田敬子
辞めどきかなどこをよぎる 原田敬子
風落ちておちばの里の花梨の 篠田和代
樹 花梨頭を分分させる 篠田和代
数を背に黄蝶のレモンイエローの 篠田和代
の羽根は輪になり離れて寄り 篠田和代
生真面目な兄のメールの決まり 内藤よし胡
事何時もの一文字 文末にヨロ 室澄子
真夏日に半寿迎へし吾がために 室澄子
無口の怪がケキ差し出す 中島タエ子
ひらきたる辞書の画面に輝きぬ シャンデリアの燭の歌 洲渚智子
認知症予防の教壇ひまっしぐら イム更新よるこぶた 成瀬眞智子
プッポウウ仏法僧と鳥の声 河合美智子
国トラマを一人観れば 河合美智子

ミシン針に糸がなかなか通らない
こんなところより奇立ちはくる
お迎へは何処より来たるや菜
種梅雨村のひみ寺の釈迦来迎
岡田宏子
教科書の啄木の短歌に惚れ込
んで短歌始めた われ十五歳
成瀬眞智子
断捨離に迷ひを見せぬ榎木の
枝より透ける空の明るさ
池田厚子
薬師寺に秋をさぼせる秋のはな
人は泣くこと許されてゐる
丹羽智子

十二月日曜歌会
体験はしないけど怖いののは
戦争・原爆 とにかく憎い 西郷賢治
砂浜にゴルフボールひとつ夕陽
浴び三保の折戸の潮騒聞こゆ 岩瀬美子
鋭角の痛みは左手ををかき右
手はオロオロわれに助けを
伊藤はつあ

二月水曜短歌会
帰省する人混み映しテレビ
は今コロナ六波の到来伝ふ
早咲きの乙女椿の桃の花に
明るむ初春の庭 河合美智子
年明けて日毎増えゆく第六波
三度目接種を今日も待たる 中島タエ子
新年と言えども新しい事なの
しめて我が魂清らかにあれ 竹中寿美恵
おひさまにかさすやうな心
たちして幼の手形窓に残りぬ 洲渚智子
錆びてゆく鉄を噛むやうな心
地する心ならずも諷し朝 長谷川公代
品川ナンバーの車に向かて手を
振る老女はそのまま夕影に立つ 夏目伊代子
昨日と今日きつぱり分けてあら
たまたの日暮りくらくらするなり 原田敬子
隣家の乙女椿を窓越しに今朝
の竹踏み五百を越えぬ 岩瀬美子
朝露の銀に輝く河川敷文低き
草広がりに 内藤よし胡
錠剤がコロリ転がり行方不明
クスリと笑いとこへ隠れた 西郷賢治
大長寿九十七歳まで生きた母
あの世に逝きし母を敬う 成瀬眞智子
鋭角の痛みは左手ををかき右
手はオロオロわれに助けを
伊藤はつあ